



成富

なりとみ・えいこ

恵以子さん



100点以上の作品が市民ギャラリーに展示された《藍染と草木染展／9月20日～22日》

プロフィール

■ 成富 恵以子 (なりとみ えいこ) さん / 85 歳 / 白樺在住 / 閑静な住宅地の一角。自宅の敷地に《工房 野の花》を設置し、個人的な活動として染め物を楽しむ。一方で、NPO 法人に所属し、高齢者の送迎などのボランティア活動にも取り組んできた。

今年度の千歳市文化団体連絡協会の文化功労賞受賞者の一人・成富恵以子さんは、自宅の工房を中心に、藍染や草木染の作品を30年間作り続けてきました。

今年9月に、これまでに作られた100点以上もの作品を展示する個展《藍染と草木染展》を開催し、ひと段落ついた成富さんに今の気持ちを聞きました。

● これまでの集大成ともいえる個展を成し遂げた今の感想は

『やるだけのことを、やった』と申しますか、最近、心臓を悪くし、疲れやすく、今後は思うようにいかないこともでてくるでしょうから、自分にとっての大きな《はじめ》として臨んだことでした。私は、お店を出したり、染め

物教室の講師をしたりするなどはとつても苦手で、頼めるお弟子さんなどはいないので、個展開催にあたって、15、16人の仲間が集まり、試行錯誤をしながら、本当に一生懸命に飾ってくれました。親しい仲間にお世話になったことも含めて、満足な思いと感謝の気持ちでいっぱいです。』

● 藍染や草木染の魅力は

「染め物は50歳になったころから始めたもので、知り合いの紹介をきっかけに、東千歳の先生や札幌の芸術の森の講師に習いに行きました。海外旅行などに行っても建物や踊りを見るより、手工芸雑貨に目がない性分なのですが、特に染め物に魅せられるのは、幼少期に福岡の《久留米かすり》(藍染

30年の創作活動の大きなけじめ・藍染と草木染展

「好きなことを精一杯続けられること。仲間への感謝の思い。」



の織物》に囲まれて育ったことが影響しているかもしれませんね。

染料《すくも》を買ってきてハイドロやソーダ灰などの薬剤で染める藍染は、昔ながらで魅力的ですが、野草を摘んできて、水で煮出して作った染め液と色止め剤に浸して染める草木染は、その時折で異なる色が楽しめます。最近では《ボケの木》を使った草木染に魅せられています。赤みがかったきれいな肌色になりますよ。表面の模様は、糸を通して《しわ》を作ることでできるのですが、染めた後、糸を抜く瞬間が一番の喜びです。』

● 一つの区切りを経た成富さんの、今後の活動の抱負は

「今回の個展のような大掛かりなものではなく、今後は気楽に作

品づくりを楽しみたいと思います。でも、『ちょっと、何かしてみたい』という気持ちがあるのです。

先日、親しい方から来年3月に行われる《ミナクルまつり》に出展しないかと誘われました。仲間と一緒にできることが嬉しいのです。好きなことを精一杯続けられること、仲間への感謝の気持ちを胸に、もう少し頑張りますよ。」

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

患っていても、「もう少し」と言いながら、一人、前のめりに布を染め続ける成富さんの姿勢は、まっすぐで、健やかに思えます。

藍の深さと同じようにどこまでも豊かで優しい笑顔に、仲間の皆さんも魅せられるのではないのでしょうか。いつまでもお元気で。